

# 第二十九回 前田純孝賞 学生短歌コンクール

## 《中高生の部》

### 【前田純孝賞】

産まれそう踏んばる牛を見守って今か今かとその時を待つ

長野県上伊那農業高等学校

三年 唐澤 明日香

### 【選評】

前田純孝賞の一作目は、牛の出産を待つ時間を詠んだ作品です。上の句「産まれそう踏んばる牛」からは、子を生むために一生懸命踏ん張っている牛の様子や、母性が緊張感を持って伝わってきます。

下の句「今か今かとその時を待つ」には、出産の瞬間を見守る人々の忍耐、期待、興奮、そして牛への敬意が交錯した感情が表れています。生命の神秘が農業学校の一部として表現されています。

夏休み花火のように一瞬で光って消えるひかっつきえる

兵庫県三木市立三木中学校

二年 武川 由唯

### 【選評】

前田純孝賞の二作目は、中学生の感性が歌の中で輝いている一首です。夏休みという特別な季節の経験は、一瞬で美しく咲き誇り消えていく花火のように、輝いては消えてしまうのです。夏の輝きと喜びを感じさせる力強いメッセージを持った作品です。

### 【準前田純孝賞】

いわし雲千切れた狭間の青空に響く吹奏大会はすぐ

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 小山 あおい

良い姿勢自信ありげな曼殊沙華私も負けじと背筋のばした

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

一年 砂連尾 優月

六月の体育館は雨粒の匂いを詰めて僕たちを待つ

山口大学教育学部付属光中学校

一年 横道 玄

秋にだけ濡れない金の雨が降るひらひらと舞うイチヨウの葉

Walter Johnson High School

三年 カルボスキ―由莉香

### 【選者賞】

夏休み入道雲が登山客おいこし進む富士の頂上

東京電機大学中学校

二年 梶原 英人

市場へと子牛を乗せて荷台行く残されたのは給餌表のみ

長野県上伊那農業高等学校

三年 石川 寛大

「ありがとう」「無理しないでね」「大好きよ」闘病中の弟に言う

大阪府立寝屋川高等学校

二年 津山 亜衣里

階段の上からのぞく海と町見られなくなるまであと四ヶ月

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

三年

西岡 瑠音

リピートでかかる音楽かきわけて「いらっしやいませ」心を込めて

兵庫県丹波篠山市立西紀中学校

二年

甲斐 はるひ

### 【新温泉町長賞】

幻のタウシュベツ橋朽ちてなお夏空を背に凜と立ちけり

東京電機大学中学校

三年

伏見 昂真

今日のこと全部つめこんだカバン捨て走り行きたい雲なき空へ

岐阜県川辺町立川辺中学校

二年

大杉 ひより

部活後の肌寒い風頬なでる葉も実も枝も私も変わる

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

江本 彩名

風感じ袖を長くし手を隠す急いで帰るいつもの通り

大阪府立泉北高等学校

二年

野田 千尋

屋根の下思いにふけるとおり雨飛べない鳥と私がひとり

大阪府立寝屋川高等学校

二年

大平 翔真

りんご飴甘い思い出くちびるに残して帰る夏祭りの夜

大阪府立寝屋川高等学校

二年

西田 ひなた

涼しげな木もれ日の中自転車でかけぬけていく夏の坂道

大阪府立寝屋川高等学校

二年

原 彩葉

愛猫がこの世を去った金曜日なつかしいあの時の笑顔

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年

金子 尚仁

からあげの最後の一個誰のものみなで争う平和な時間

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年

水谷 浩太郎

アオサギのシンと見つめる水面にはキラキラ映る空の青さよ

兵庫県姫路市立城乾中学校

三年

古川 釉菜

### 【新温泉町教育長賞】

ファインダー覗いた向こう見えるのは眩しく光る選手の笑顔

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

竹野 美紀子

秋終わり落ち葉からのメッセージまた会うために元気でいてね

大阪府立泉北高等学校

二年

岩本 結衣

両親にいつも言えないあの言葉空の弁当持って今日こそ

大阪府立泉北高等学校

二年

藤田 萌那

儂げな線香花火守るため二人で囲む手もとの灯

大阪府立寝屋川高等学校

二年

岡市 未海

時計見る午前二時過ぎ月曜日くたびれていたノートも僕も

大阪府立寝屋川高等学校

二年 高祐希

ひんやりと冷たい風が吹き抜ける枯葉おどる立冬の朝

岐阜県川辺町立川辺中学校

三年 伊藤歩花

席変えて席が一つずれたけど違って見える教室の景色

岐阜県川辺町立川辺中学校

三年 嶺川大智

五右衛門風呂かじかんだ手を湯の中へ心も雪もとかされながら

兵庫県立伊丹北高等学校

三年 山村遼真

ぽつぽつぽつフロントガラスがキラキラ水玉輝く塾帰り道

山口大学教育学部附属光中学校

二年 田中妙

バスを降り今日ふりかえる「よかったな」夕日が明日が輝いている

福岡県川崎町立川崎中学校

二年 山本康貴

### 【神戸新聞社賞】

太陽の光を浴びる白い船空と海との狭間を進む

東京電機大学中学校

三年 丸山ちひろ

「好きだ」って照れくさいから制服の裾を握った音で気づいて

神奈川県立光陵高等学校

一年 猪野田涼奈

黒毛和牛七頭連れて体尺測定えさで誘導体重計へ

長野県上伊那農業高等学校

三年 土川心都

謝謝ともらった笑顔忘れないまたこの土地を歩きに來たい

大阪府立夕陽丘高等学校

二年 井上和奏

窓のない電車に乗りたいたですあなたとたわいもない話だけしたい

大阪府立寝屋川高等学校

二年 久保そら

夕暮れの車窓に見える淡い赤なんともいえぬ週末の色

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年 片岡拓翔

ふるさとを離れて過ごす夏休み少しさみしく少し楽しく

兵庫県丹波篠山市立丹南中学校

二年 富田藍

真っ青な雲一つないステージに主役のように飛行機雲が

兵庫県三田市立長坂中学校

二年 竜門紗帆

夏の波「右!」「右!」「左!」みんなの声甘いすいかに吸いよせられて

兵庫県三田市立狭間中学校

二年 佐藤奏

ドンシユワシヤワはじける花火を観る君のソーダみたいにはじけた笑顔

兵庫県赤穂市立坂越中学校

二年 平井心羽

【佳作】

蝉しぐれ祖母が用意のエンピツは父が使った「ドラクエファイブ」

東京電機大学中学校

二年 浅尾 大葵

ゴロゴロと夢のつまった荷を引いてまだ見ぬ景色へいざ旅立たん

東京電機大学中学校

二年 今枝 稜大朗

脱皮する海老は生まれ変わり跳ねる一皮むけると人も跳ねる

東京電機大学中学校

二年 小川 卓洸

夏の空見つめるのみの宝石よ大きな星と小さな私

東京電機大学中学校

二年 吉次 亮真

シヨピング一つの風輪鳴り響く夏が私を呼んだ気がした

東京電機大学中学校

二年 小林 美月

雨が降りスカートの模様おそろいで飛びこせなかった水たまり模様

東京電機大学中学校

二年 城所 英里

棚壊しまた買いに行くたるすぎるだるい私とたるんでいる板

東京電機大学中学校

二年 東 律希

夏休み祖父母の家で野菜取りきゅうりのとげがチクチクささる

東京電機大学中学校

二年 三笠 晃誠

夏の夜かがやく夜景鹿嶋かな北浦から見る工場群よ

東京電機大学中学校

三年 大江田 悠希

想い出す犬とじいじとねこじゃらし二両編成夕日の中で

東京電機大学中学校

三年 高須 智士

アナタとのあまいおもいで特製のソーダに入れる調味料あり

東京電機大学中学校

三年 中野 蓮

すぴなっち冷せばおひたしかつおぶし夏のおやつに冬野菜食む

東京電機大学中学校

三年 渡辺 龍音

合宿でみんなの肌は日焼けする白いボールも茶色へ変わる

東京電機大学中学校

三年 千秋 望

煩惱を破壊しつくす仏様顔が怖いよ明王様たち

東京電機大学中学校

三年 横山 丈太朗

チェーンソーフル装備して刃を入れる狙いが合わず**いびつな椅子**に

長野県上伊那農業高等学校

三年 藤澤 伶

シャイン食べ今年の出来を確かめる響く歓声こぼれる果汁

長野県上伊那農業高等学校

三年 松本 彩美

コオロギの合唱夜に聴きながら落ちた枯れ葉を集めて捨てる

岐阜県川辺町立川辺中学校

二年 佐藤 朱武

シャーペンの芯がポキポキおれまくるでもそのくらい集中してる

岐阜県川辺町立川辺中学校

二年

櫻井 愛咲

寝る前は保湿クリームぬりすぎてべとべとのままふとんに入る

岐阜県川辺町立川辺中学校

二年

東 ハナベル

コンビニの新商品が出たときは季節の変わり目教えてくれる

岐阜県川辺町立川辺中学校

二年

山田 朋香

加湿器の音だけ響くりビングに届く歌声小鳥のかけ合い

岐阜県川辺町立川辺中学校

三年

安藤 琴美

炭酸水喜怒哀楽溶け込んでびんに揺れてる私の心

岐阜県川辺町立川辺中学校

三年

小田 憩

木漏れ日が新書を照らすお昼ときページをめくればそこは異世界

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

神田 結衣

帰り道友と分かれて一人なる電線の向こうに広がる夕日

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

久羽 悠加

しとしとと耳をすませて目を閉じる私のための演奏会

大阪府立夕陽丘高等学校

一年

樋口 和

「構えよし」中に息入れ震わせる六重奏の音はどこまでも

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

坂口 七菜

一音に込める思いを楽器へとどんどん進め私の音楽

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

永田 唯菜

部活動帰りの空は何色か空で感じる冬の訪れ

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

服部 未来

放課後の人影のない教室の斜陽に光るサックスの金

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

藤井 彩葉

帰り道急いで曇天夕立に二人で笑う八月の五時

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

見勢 拓海

鮮やかな色をみせない空眺め夏が好きだと気付く冬の夜

大阪府立夕陽丘高等学校

二年

水口 栞里

見上げると夜空に星が散っている星に心が吸いついてゆく

大阪府立寝屋川高等学校

二年

家村 桃花

友達と遊んでいるとなぜだろう盛り上がるほどどこか悲しい

大阪府立寝屋川高等学校

二年

井原 大稀

ひっそりと心を見透かす波の音このまま全てを連れ去ってくれ

大阪府立寝屋川高等学校

二年

尾本 和奏

雨が降るそれぞれ想う君と僕会うのを空が嫉妬している

大阪府立寝屋川高等学校

二年

塩屋 妃香瑠

毒針も恋心もない雄蜂をとりこにさせたあなたはベゴニア

大阪府立寝屋川高等学校

二年 竹内 一世

解けぬかな我がこの恋の方程式解いて欲しいよ貴女にだけは

大阪府立寝屋川高等学校

二年 瀧川 恭生

通学路響きわたるせみの声かきけすように笑いが響く

大阪府立寝屋川高等学校

二年 玉田 隼斗

初めての私の冒険始まった大きな期待をかばんにつめて

大阪府立寝屋川高等学校

二年 中西 彩華

目でもいい言葉がなくとも伝われば我が家の鳥の感情表現

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年 池田 春樹

眠いとき聞こえてくるのはゆっくりと時を刻む針の音

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年 内藤 匠吾

中二女子父に冷たくあたって父はおどける家族はいいな

兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校

二年 岡 柚乃

ぬけるよな青空のもと元気よく生きてるあかしせみ時雨かな

兵庫県三木市立三木中学校

一年 井上 拓己

かみむすびあなたを想って不器用なおだんごへア気づいてたかな

兵庫県三木市立三木中学校

二年 今井 和奏

風鈴が風に吹かれてうたってるリンリンと明るい声で

兵庫県三木市立三木中学校

二年 友野 結月

星を見る毎日かかさず星を見るだれかが私を見ている気がして

兵庫県三木市立三木中学校

二年 藤岡 みなみ

帰り道君と見上げる冬の虹後ろ姿をスマホの中に

兵庫県立浜坂高等学校

三年 今村 光里

太陽のまぶしい光に飛んでゆくなげたボールがすいこまれそう

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

一年 田中 陽盛

風吹けば窓の隙間にかくれんぼ自分と似てるカメムシたちも

兵庫県新温泉町立浜坂中学校

三年 米谷 太心

この夏はとなりに小さな宇宙人妹もいっしょにせんぷうきのとりこ

山口大学教育学部附属光中学校

二年 中元 咲来

## 《大学生の部》

### 【前田純孝賞】

むらさきの法被輝く五月晴れ地車囃子が心を踊らす

頌栄短期大学 二年 重見 萌衣

### 【選評】

五月に行われる岸和田のだんじり祭りをうたった歌です。大学のこと、学生生活のことをうたった作品が多い中から、今年は少し違う題材に挑戦した歌を「前田純孝賞」に選ばせてもらいました。「法被輝く」「地車囃子が心を踊らす」二つの動詞が生き生きと使われています。

昨年は大学あるいは大学生を皮肉ったような作品を「前田純孝賞」に選びました。今後とも、自由を愛した前田純孝にふさわしい、自由な幅広い取材を心がけて欲しく思います。

### 【準前田純孝賞】

衣替え夏の支度はできたからブックカバーも水色にする

青山学院大学 二年 海老原 凧流

この指を把握反射で握る手に一生銃を握らせないよ

早稲田大学 四年 桐生 莉緒

### 【選者賞】

幸せに匂いはあるのと問う君に籠いっぱいのパンを焼く朝

青山学院大学 二年 平山 香月

パンくずを落とす地面が空ならば今おおはと座に星が食われた

京都精華大学 四年 中振 悠

目の前をしっぽ揺らして歩いてるいつかはきつと猫になりたい

東京理科大学 三年 田原 梨音

### 【新温泉町長賞】

後夜祭最後の花火が打ち上がり i f の世界が閃き消えた

筑波大学 四年 鵜田 佐季

ビルの中で窮屈そうに沈む陽がまんまるのまま見えたふるさと

青山学院大学 三年 谷口 茉子

メイリオで見慣れた漢字が書けなくて 10年ぶりのかきかたドリル

岡山大学 三年 竹内 日奈子

大人びた彼がナイフで切り裂くはハンバーグ時間私の心

国際教養大学 一年 小笠原 朱音

雨の日の通学路に咲く紫陽花の薄紫に心が晴れる

川崎医療短期大学 一年 赤木 智美

【新温泉町教育長賞】

口喧嘩していた頃で構わない時間よ戻れ父の入院

日本大学大学院 三年 内村 佳保

眠るってわずかな死だよねえわたしきみの隣で何度も死にたい

琉球大学 二年 金城 理子

真つ暗な空に輝く一等星唯一無二の存在を示す

東京理科大学 二年 上野 樹花

惜しみつつ静かな朝の食パンに君が残したいちごジャム塗る

青山学院大学 三年 劔持 瑚亜

オーブンへ詰め込み 250℃で睡魔を殺すベーカーリーバイト

東北大学 二年 後藤 悠都

【神戸新聞社賞】

登下校日々香ってる金木犀少し苦手な秋の訪れ

頌栄短期大学 二年 東 杏香

田舎者シテイガールに格上がり変化を遂げて輝け私

頌栄短期大学 二年 南山 絢香

堂々と抱負読み上ぐ千人の新生生の代表として

金沢学院大学 三年 小林 陸人

朝焼けの澄みし香りを吸い込めば真っさらになるよな感覚が好き

大阪樟蔭女子大学 四年 谷岡 美月

八月のある晴れた日にやってきた我が家の子犬三キロになる

川崎医療短期大学 一年 森 美優

【学校表彰の部】

《学校特別賞》 3校

- ・ 東京電機大学中学校
- ・ 大阪府立寝屋川高等学校
- ・ 大阪府立夕陽丘高等学校

《学校賞》 5校

- ・ 岐阜県川辺町立川辺中学校
- ・ 大阪府立市岡高等学校
- ・ 大阪府立今宮工科高等学校
- ・ 兵庫県宝塚市立宝塚第一中学校
- ・ 兵庫県三田市立ゆりのき台中学校